

第2回 笠岡市特別職報酬等審議会（開催結果）

日 時：令和3年10月1日（金） 14：30～15：50

場 所：分庁第4 2階大会議室

参加者：委員8名，事務局5名

（概要）

1 諮問

笠岡市長から大嶋会長へ諮問書を提出

2 市長あいさつ

笠岡市長

※ここで市長及び報道機関退席

3 会長あいさつ

4 資料説明

事務局から審議資料について説明

5 審議内容（要約）

鳴本委員：3年前の報酬等審議会の答申を完全に無視されたことを私たちが受けて、どういった形で今回発表するのか、しないのか。市長，副市長，教育長だけの答申でいいのか，そのあたりを決めて議論していかないといけない。範囲が広くなりすぎてもいけない。この審議会は前回答申を出したが議会がそれを無視して，自分たちの思うままに議決して報酬を上げた。ただ，2年間だけそれを減額している。来年の3月を過ぎれば堂々と報酬を上げるだろう。その前に我々が手を打たないといけない。正当な論調できちっとした何かの形で残さないといけない。個人がいくらおかしいと言っても全市民には届かなかった。その後選挙があったが，選挙があったにもかかわらず，このような横暴な市民の意見を無視したようなことがあまり市民に知らされないまま，そのようなことをした人たちが堂々と当選されているという現状。当時盛んに言われたのが，報酬が少ないと新しく議員を目指す人が出てこないとい

うことで、それも一理あると思う。ただ、現状は定年がないために 80 歳になってもまだ議員を続けている。今までの笠岡市の議会は、地元・地域から推薦されて出て、ある程度歳をとると若い人と交代するというのが伝統的なあり方だった。それが正しいとは言わないが、そういった前例を無視して、自分たちの生活のために議員に出て、生活の為にいつまでも辞めないで、その人が辞めないと次に出れないという話をよく聞いた。こういったことは我々の審議会の中で議論するべきではないだろうが、大変大きい問題であり手の施しようがない。正しいことをいくらやっても市民がそういう意識だから変わりようがない。この審議会に矛盾を感じる。あまり意味がない。ただ、せっかくなので正しい方向づけだけはきちっとした形で残していきたい。

大嶋会長：全く同感である。若者が議員に立候補しないのは報酬が低いからだ勝手に決め込んでいる。勤務時間から細かく計算された方がいるが、時給はかなり高い。議員は我々の答申を無視して勝手に決めて自分たちの懐に入ることを考えているようにしか見えない。

鳴本委員：市町村の比較があったと思うが、全国でトップを走っているということをもっとアピールしないと。議員の中でも良識のある人もいると思うのだが。

塩田委員：議員の皆さんは報酬上げることに賛成したのか。みんな上がるのは嬉しいと思うが。分かれば教えてほしい。

鳴本委員：議会の中では賛成もあったが反対もあったのではないか。

塩田委員：こういった資料は議員は見られているのか。これを見てあの金額にしていることに良識を疑う。

事務局：本日配布している資料の中で、見やすくしている分布図の表は一目瞭然で分かると思い事務局で作ったが、その元となるデータについては公表されているもの。

鳴本委員：3年前も同じようなランキング形式にした資料はあった。それをその当時見せたかどうか。私は見せてないと思う。

高木委員：これを見せてさらに下げると言わなかったというのはおかしいと思う。

事務局：今回は議会側から審議依頼がある前の平成 29 年度に議会の中で行政改革特別委員会というのを作って適正額について審議をされている。その時にも今日と同じように、同じ人口規模の町がどういう報酬額であるか参考資料として検討はされているようだ。

鳴本委員：しかし、答申を無視して議決された後に議長室で申し入れを行ったが、その時に議会が決めた報酬額は全国でトップクラスになると言ったら当時の副議長（大月議

員)は「そんな数字にはならないでしょう」といって慌てていた。といこうとは、彼はその事実を知らなかった。知らない議員はいると思う。そんな認識もないまま決めていた。一部の議員には資料が届いて見ているのだろうが、そんなことだから当然市民は知らない。広く市民に情報開示して伝えていかないといけない。委員会も含めて会議の中身は市民にオープンにすべき。

角南委員：その通りだと思う。議員が知らない資料は市民は知らない。ましてこういった会議の内容も他でしゃべらないように書いてあるので、積極的にばらすわけにもいかない。審議会として、せめてこういった資料だけでも公開したらどうか。細かい金額までは別として分かりやすい資料で他市に比べて高いということは知っていただきたい。議員も議会だけを仕事と考えたら高額な金額になると思うが、中には本当に地域の方たちのことを考えて手弁当でかつ労力も提供し、という若い議員もいる。だから一概に議員がというと一生懸命にされている方には気の毒。確かに年金もないし、本当に真面目に考えている人には魅力がないなと思う。利権だけ考えている人と一生懸命しようとしている人のバランスの問題。議員数が多いなとは思っている。それさえクリアすれば今の報酬額は他市がどうこうは別として、若い人がこれから頑張っていただけるなら決して無茶な金額だとは思わない。市長、副市長さんたちはよくしてくれているので下げていたものを元に戻すのはやぶさかではない。

大嶋会長：我々委員が一生懸命考えていることを広報とか市制だよりも堂々と出していただいて市民に知らしめること。これが一番。

鳴本委員：手法として笠岡市の総合計画を策定するときとか、いろんな課題を考えるときに一般の市民の人を巻き込んで答申を出していく。それと同じくらいの規模であればいい。笠岡市の報酬については隠す必要はなくオープンにすればいい。多くの人に参加してもらって1年くらいかけて議論すればいい。そうすれば市民も笠岡市の議員はとんでもなく高いな、市長は安いなといったイメージをしやすい。

事務局：皆さんの同意が得られればオープンにしていく。

鳴本委員：他の自治体と比べて、人口規模とか税収規模とかを調べながらつり合いがとれるような方法で決めていかないといけない。笠岡市が一番になるのはおかしい。

小寺委員：ここで審議するのは現行の三役と議員の報酬が適正かということ、議員の報酬はこのままだと条例が失効するので高くなるがその額が適正かということ、を審議するのならば、同規模市町村で同じ数でそれぞれを比べるような資料を作って、市長はどうなのか、議員はどうなのかを一緒に見ておかないといけない。市長だけはぐっと低いのに、議員だけは高いなとかいったことを見させてもらったほうがいいと思

う。民間の企業の経営者や取締役の報酬を決めるときは当然どれだけ儲けたかという税収のようなものをみて報酬を決めることになるが、公共団体が税収までみて決めるのがいいのかということもあるので、なかなかそれが難しいとなると、例えば公共サービスに従事している人（笠岡で言うと笠岡市の一般職の職員）の平均的な給料月額がいくらになるのか、そことの比較で議員はどうなのかと。賞与だけみると浅口市は議員と一般職の職員はだいたい一緒である。同じ公共サービスに関わっているという配慮があるのかもしれない。それに対して、笠岡市については突出的に議員のほうが高い。同じ公共サービスに責任を持って関わっておられる一般職の職員の平均給与はいくら、それと比較して議員、三役それぞれいくらと考えたい。笠岡市だけでなく、分かれば近隣市町村についても知りたい。少なくとも笠岡市については一般職の職員の給与水準に対して、市長や議員がどれくらいの水準に位置付けられるのかということも分かれば適正かどうかの判断がしやすい。一般職の職員平均でみると、入りたての若い職員さんもいるのでおかしいというのであれば、管理職以上でもいい。そのあたりのいくつかの累計に分けて、管理職で平均したら給与はこれくらいでそれと比べて市長、副市長はどうなのかとか。全国規模の比較にプラスしてそういう笠岡市の職員さんと比べてどうなのかという比較があってもいいのでは。今配っていただいた資料をみると、母数が少ないですが、そう笠岡市の三役が高いという訳ではない。さっきの議員の資料と比べると全然違う。こういう分かりやすい資料を作っていただきたい。

鳴本委員：この資料（分布図）が一番よく分かる。議員と同じ資料を作って比較しないと。審議会で審議するなら議員も市長も同じ資料で比べないといけない。

小寺委員：さっきから話が出ている市民の方に知っていただくということであれば、さっき報道の方出られたが、この審議会も公開にしないといけないのではないかとということ。隠す必要は全くなく、オープンな資料だから。

鳴本委員：隠す必要は全くない。

小寺委員：全くないと思うが、委員の方がカメラが入ったら意見が言えなくなるということがあるのであれば非公開にしないといけないと思う。笠岡放送に入っていて、審議会の内容を撮っていただいて、資料も映していただいて中継していただいてといった方法をとれば市民の方もリアルタイムでこのようなことを審議されているということが分かる。

鳴本委員：そういう時代。市民の方に知れ渡ったら市民の方が正しい判断をしてくれる。いい情報を流してくれる。

小寺委員：答申の結果だけではちょっとなかなか理解が深まらない。こんな資料を見ながら、こんな意見が出て、こんな議論をしているということを直に知っていただいたほうがいい。

事務局：資料としては全部オープンにできる。ただ、今まで秘密会にしていたのはテレビが入ったときに、言いにくいこととか、どなたがどの意見に賛成したとか反対したとか、意見を出しにくくなるといったことが危惧されるのでオープンにしていなかったが、委員の皆様の了解が得られれば公開でいい。

高木委員：こういった資料を撮ってもらうのはいいけど、テレビが入ったらやっぱり意見が言いにくい。

塩田委員：同じく意見が言いにくい。

事務局：一つの方法として公開できる資料は市のホームページ上に報酬審の開催や結果について出すとかはできる。

鳴本委員：議会に見せたいもの、市民に見せたいものはどんどん出していけばいい。

小寺委員：審議の中身を中継されたら困るというのであれば、最後に答申を出されたときに会長がテレビの前で説明をすとかでもいいのでは。こういう資料を見ながら審議会の中でこんな意見が出ましたといったような説明を収録して放送してもらえればいいのでは。

高木委員：音声だけならいいけど、誰が何を言ったというのが分かるのはちょっと…。

塩田委員：こういった資料を各戸に配ったらどうか。年寄りでも分かりやすい資料を配って見てもらうという方法もあると思う。広報に出してもあまり皆さん見られない。こういった一枚の表になってたら分かりやすい。

鳴本委員：結論として市会議員は高い。こういった整合性をとるための資料を出して市民全体で考えていかないといけない。

大嶋会長：今回はそろそろ結論を出さないといけない。まとめると、市長、副市長、教育長については今回上げる事はもうちょっと待ってくれということで。議員についてはどうするか？上げるか、下げるか。

小寺：他市との状況を見ると下げるという方向かと。

事務局：次回、改めて視覚的に分かりやすいものと、一般職員との比較でどうなのかという点も含めた資料をお示ししたい。また、1回目の会議のときに大嶋会長から笠岡市の市長、副市長の期末手当が低いといった話があったが、月額は据え置くとして、期末手当はどうするかといった視点も踏まえて次回審議をお願いしたい。今日方向性が見えてきたので追加のデータ資料と答申の案の骨子を事務局のほうで作らせて

いただくので、3回目の会議で皆さんのご意見を加えていただいて答申として完成すれば予定通り次で終わらせていただきたいと思いますと思っている。

大嶋会長：第3回目までに明確な意見を皆さん持ってきていただきたいて次回もよろしくお願ひしたい。

事務局：公開については、生放送では流さないと思うので、映像とか資料とか議論がどうなったかといったことについては公開するといったことでよいか。

委員：よい。

角南委員：最後のまとめも会長にさせていただいてそれを放送していただけるということではないか。

事務局：収録してもらおう。

小寺委員：今までの答申は文字だけだが、こういった資料もつけていただくとわかりやすくていいのではないか。

鳴本委員：一目瞭然で誰がみても分かりやすいのでそれがいい。

大嶋会長：市民の協力、理解がないといい方向にはいかないのて次回よろしくお願ひしたい。

6 その他

- ・第3回審議会 開催日については11月上旬から中旬で調整させていただく
- ・資料確認後、質問や追加資料希望があれば、「質問票」に記入の上、事務局宛てにFAX又はEメールで送信のこと